

国語総合 評論 「鳥瞰読解法」を身につけよう①

バードアイ(正確には、Bird's eye)とは、鳥瞰^{ちやうかん}＝空から眺める鳥のように、広く見て全体を捉えること。だから、鳥瞰読解法は、広く見渡すように文章の構成を見て取り、筆者の言いたいことをしっかりとつかむことのできる読み方だ。全体の構成がわかれば、細かい部分もよくわかる。

今回は、教科書の評論文にアタックする準備として、この読解法のトレーニングを行なおう。

バードアイ

〈鳥瞰読解法の基本手順〉

- ① 事実(具体例)と意見(筆者の考え)を区別しながら読み、事実を囲む。
- ② 意見の中に、主題文(筆者の言いたいこと)を見つけ、傍線を引く。
(主題文は一つだけの場合も、いくつかある場合もある)
- ③ 事実と主題文の関係を矢印で書き込む。
- ④ 3つの作業をしながら、全体の主題文を見つけ、◎をつける。

※1 囲んだ事実の中に、まとめ文がある場合は、そこにも傍線を引く。

※2 主題文は、文の一部だったり、部分をつなぎ合わせる場合もある。

練習1

次の文章を読み、右の基本手順で作業されていることを確認しよう。
まだ囲んでない事実があるので、それを見つけ、囲んでみよう。

事実の中の「まとめ文」も他にあるだろうか。全体の主張を表す主題文を確認しよう。

まとめ文

中学生 大賀 さくら

(東京都立川市 13歳)

11月下旬、学校の総合授業の福祉体験で老人ホームに行き、おばあちゃんたちのお世話をしました。耳が遠いので大きな声で話さなくてはならず、時代が違うので話もあまり通じませんでした。私はそんな経験が一度もなく、改めて大変な

ことが分かりました。

2日間でボール遊びやご飯の後片づけ

など、いろいろなことを経験しました。

仕事を終えるごとに、「ご

苦労様」あり

がとう」と言われ、とてもうれしかったです。また、

お礼と笑顔の大切さ学んだ

おばあちゃんたちが笑顔になってくれたので、私まで笑顔になりました。
私たちは普段、当たり前すぎて「ご苦労様」や「ありがとう」という言葉をあまり言いません。でも、私は福祉体験を通して知ったお礼の言葉と笑顔を、これからの生活の中でも大切にしたいと思っています。

まとめ文

○ 事実が続いていても、話が変わっていれば、まとめごとに、別に囲む。

○ 事実の囲みの中にある「ありがとうと言われ、とてもうれしかった」と、「笑顔になってくれたので、私まで笑顔になりました」という二つのまとめ文が、主題文につながっていることを確かめよう。

練習2

次の文章を読んで、鳥瞰読解法の基本手順に従い、主題文を見つけよう。

朝日新聞「声」欄 07.12.23.

「勉強したい」

子供ら目輝く

大学生 池戸 里奈

(名古屋市守山区 20歳)

先日あるテレビ番組を見ていて、カンボジアやインドネシアなどの発展途上国で、学校に通えない子どもたちの実情を知った。子どもたちは、学校へ通えないだけでなく、食事も満足に取れず、住む場所も簡単な

小屋のようなものだった。

それでも子どもたちは、

目を輝かせて、「お医者さんになりたい」「学校の先生になりたい」と語り、そのために学校に通って勉強

がしたいと話す。日本に住む私たちは、毎日、三食きちんと食べられて、学校に通うこともできる。それなのに自分と他人を比べては

「私は不幸だ」「僕は恵まれていない」という。

だが、子どもたちを見てみると、そんな自分たちがとても恥ずかしくなり、後ろめたい気持ちになった。

環境は最悪でも、夢をあきらめず、一日一日を一生懸命に生きている子どもたちを見習わなくてはいい。

そして、子どもたちの夢をかなえるために、私たちにできることは、どんな協力していかなければいけないか

を考えている。

← 左半分は裏に折っておこう

解答例

「勉強したい」

子供ら目輝く

大学生 池戸 里奈

(名古屋市守山区 20歳)

先日あるテレビ番組を見ていて、カンボジアやインドネシアなどの発展途上国で、学校に通えない子どもたちの実情を知った。子どもたちは、学校へ通えないだけでなく、食事も満足に取れず、住む場所も簡単な

小屋のようなものだった。

それでも子どもたちは、

目を輝かせて、「お医者さんになりたい」「学校の先生になりたい」と語り、そのために学校に通って勉強

がしたいと話す。日本に住む私たちは、毎日、三食きちんと食べられて、学校に通うこともできる。それなのに自分と他人を比べては

「私は不幸だ」「僕は恵まれていない」という。

だが、子どもたちを見てみると、そんな自分たちがとても恥ずかしくなり、後ろめたい気持ちになった。

環境は最悪でも、夢をあきらめず、一日一日を一生懸命に生きている子どもたちを見習わなくてはいい。

そして、子どもたちの夢をかなえるために、私たちにできることは、どんな協力していかなければいけないか

を考えている。

○ 第二段落には、二つの異なる事実が書かれているので、ほんとうは改行した方がよいのがわかる。

○ 「恥ずかしくなり、後ろめたい気持ちになった」は、意見というより、自分がそういう気持ちになったという事実。それが原因で、主題文につながる。

○ 全体主題文は二つあると考えてもよいが、「後ろめたい気持ちになった」から考えると、「見習わなければいけない」が言いたいことで、「協力」は、それにつけ加えた考えであらう。

練習3

次の文章を読んで、鳥瞰読解法の基本手順に従い、主題文を見つけよう。

歴史ある寺社

拝観料を安く

大学受験生 安藤 春菜
(長野県小諸市 18歳)

寺社など日本の古い建築に興味があり、昨秋、京都に行ってきた。しかし、行ってみて、拝観料が高いと思った。1カ所500円くらいだが、その微妙なラインが小遣いの少ない若者にはこたえるのだ。私は見たかった幾つかのお寺を、渋

々我慢した。

確かに、維持費などに随分とお金がかかるだろう。由緒あるものだから500円くらいは安いかも知れない。しかし、もう少し気軽に楽しめるように、例えば夕方の入場者が少ない時間帯は無料にするとか、学生や若者は割引にするとか。長野の善光寺は無料だし、小諸の懐古園は夕方5時以降は無料開放している。聞くところでは、日本は

寺社の拝観料だけでなく、

各種の展覧会やコンサート
の料金が高いという。働いて高収入を得るようになってから見れば良いとの考えもあるが、私はたくさん吸収できる若い時から、由緒あるモノや才能ある人物に接し、自分の可能性を広げるべきだと思う。

歴史ある建物や芸術性豊かな催しが、若者にとってもっと身近な存在になって欲しいと願っている。

← 左半分は裏に折っておこう

解答例

歴史ある寺社

拝観料を安く

大学受験生 安藤 春菜
(長野県小諸市 18歳)

寺社など日本の古い建築に興味があり、昨秋、京都に行ってきた。しかし、行ってみて、拝観料が高いと思った。1カ所500円くらいだが、その微妙なラインが小遣いの少ない若者にはこたえるのだ。私は見たかった幾つかのお寺を、渋

々我慢した。

確かに、維持費などに随分とお金がかかるだろう。由緒あるものだから500円くらいは安いかも知れない。しかし、もう少し気軽に楽しめるように、例えば夕方の入場者が少ない時間帯は無料にするとか、学生や若者は割引にするとか。長野の善光寺は無料だし、小諸の懐古園は夕方5時以降は無料開放している。聞くところでは、日本は

寺社の拝観料だけでなく、

各種の展覧会やコンサート
の料金が高いという。働いて高収入を得るようになってから見れば良いとの考えもあるが、私はたくさん吸収できる若い時から、由緒あるモノや才能ある人物に接し、自分の可能性を広げるべきだと思う。

歴史ある建物や芸術性豊かな催しが、若者にとってもっと身近な存在になって欲しいと願っている。

○主題文は、「筆者の一番言いたいこと」である。

どれが主題文か、迷ったら、「筆者は、何を訴えたくてこの文章を書いたのだろう」と考えてみるとよい。この場合だと、「歴史ある建物や芸術性豊かな催しが、若者にとってもっと身近な存在になってほしいと願っている」というのは、筆者の気持ちを述べた結びだが、一番言いたいことではない。

国語総合 評論 「鳥瞰読解法」を身につけよう④

練習4

次の文章を読んで、鳥瞰読解法の基本手順に従い、主題文を見つけよう。

福井 仁 (横浜支局次長)

赤信号を無視する車をよく見かける。信号は青から黄へ、そして赤に変わる。この時に、赤の信号を突っ切る車だ。

黄信号は止まれる時は止まる、赤信号は止まる。基本中の基本だ。でも、「赤に変わった直後でも進んでも構わない」と、勝手に考えている運転手が少なくないようだ。

私はジョギングをしていて、しばしば怖い思いをさせられる。赤信号で足踏みをして、青に変わっていきスタートという時に、目の前を走り抜ける車がある。

都内のある交差点に一時間立って、「取り締まり」を試してみた。数えたところ、赤信号で止まらなかった車は七十台。あくまでも一地点での観察ではある。それにしても、一分間に一台以上というのはかなり多い。

信号で止まりたくない気持ちは分らないでもない。しかし、突っ込めば歩行者もよけるだろう、車だって進んでこないだろう、という思い込みは危険だ。人身事故を起こせばとんでもないことになる。

今の信号は、わずかの間どの方向も赤がつく。事故を減らそうと採り入れた方式だ。この一瞬の間合いが、「赤の直後なら突っ込める」という間違った走り方をはやせさせた皮肉な側面もある。

「これを元に戻せば、また事故が増える。運転者の自覚を待たない」と警視庁交通安全指導センターはいう。

元F1レーサーの中嶋悟さんは、町中で運転する時はサーキットを走る時以上に気を使う。「運転の基本は相手のエリアを侵さないことだ。赤で突っ込むことは青信号の人のエリアを侵している」と話す。

「赤は止まれ」は子供でも知っている約束ごとだ。それすら守れない風潮は、今の世の中を反映しているようでもある。

福井 仁 (横浜支局次長)

赤信号を無視する車をよく見かける。信号は青から黄へ、そして赤に変わる。この時に、赤の信号を突っ切る車だ。

黄信号は止まれる時は止まる、赤信号は止まる。基本中の基本だ。でも、「赤に変わった直後でも進んでも構わない」と、勝手に考えている運転手が少なくないようだ。

私はジョギングをしていて、しばしば怖い思いをさせられる。赤信号で足踏みをして、青に変わっていきスタートという時に、目の前を走り抜ける車がある。

都内のある交差点に一時間立って、「取り締まり」を試してみた。数えたところ、赤信号で止まらなかった車は七十台。あくまでも一地点での観察ではある。それにしても、一分間に一台以上というのはかなり多い。

信号で止まりたくない気持ちは分らないでもない。しかし、突っ込めば歩行者もよけるだろう、車だって進んでこないだろう、という思い込みは危険だ。人身事故を起こせばとんでもないことになる。

今の信号は、わずかの間どの方向も赤がつく。事故を減らそうと採り入れた方式だ。この一瞬の間合いが、「赤の直後なら突っ込める」という間違った走り方をはやせさせた皮肉な側面もある。

「これを元に戻せば、また事故が増える。運転者の自覚を待たない」と警視庁交通安全指導センターはいう。

元F1レーサーの中嶋悟さんは、町中で運転する時はサーキットを走る時以上に気を使う。「運転の基本は相手のエリアを侵さないことだ。赤で突っ込むことは青信号の人のエリアを侵している」と話す。

「赤は止まれ」は子供でも知っている約束ごとだ。それすら守れない風潮は、今の世の中を反映しているようでもある。

この文章で、筆者が何を訴えたいのか、と考えると、主題文は、◎のところになる。

目立つ赤信号無視 勝手な思い込みは怖い

朝日新聞より

国語総合 評論 「鳥瞰読解法」を身につけよう⑤

練習5 鳥瞰読解法で、主題文を見つけよう。

ことしのゴールデンウィークの特徴は、「分散型」といわれる。不況のせい、緊張して行楽地に詰めかけるよりも、近間で楽しみを見つける人が増えたようだ。

同僚は庭いじりをして過ごしたという。

「種を芽吹かせるというのは楽しいものだ」と満足そう。三LDKのマンション暮らしの私は庭いじりというわけにはいかない。だが、振り返ってみると、家族五人の休みは自宅から半径五キロ以内で事足りた。

大都市近郊の新開地という地の利はある。釣り堀でのコイ釣り。川沿いの自転車道路でのサイクリング。けっこう近間がおもしろいのに驚いた。

渋滞や混雑で先を争って血走る目は、そこにはなかった。釣り堀では、隣の人が初心者の息子にイロハを教えてくれた。見ず知らずの他人とのなごやかな話が経験できた。

昨年未まで住んだ前任地ドイツは、休暇の過ごし方では日本の大先輩だ。スポーツ、趣味、散歩……。個人主義のお国柄のせいか、過ごし方は多様だ。知人は「休暇というのは、どこに行ったか、ではない。時間を自分のものにする事なんだ」といった。

有給休暇は、おおむね自分の好きなときにとれる。小刻みにも、まとめてもとれる。学校の夏休みの時期は州によって異なる。

休みのとり方が分散するから、日本の盆暮れ、ゴールデンウィークのような殺人的な混雑はない。週末には、飛行機、鉄道の運賃やホテル代が大幅に割り引きされるほどだ。

分散が、ゆとりを保証している。

「働け、働け」が「遊べ、遊べ」の強迫観念に変わるだけなら、意味はない。休みを好きなときにとれるような労働環境をつくることを労使に考えてみてほしい。内需を増やす効果もあるかもしれない。

労使＝労働者側と使用者側。ここでは、労働組合

側と会社(使用者)側双方という意味

内需＝国内の需要。国内でお金が使われること

(増えれば、景気がよくなる)

ことしのゴールデンウィークの特徴は、「分散型」といわれる。不況のせい、緊張して行楽地に詰めかけるよりも、近間で楽しみを見つける人が増えたようだ。

同僚は庭いじりをして過ごしたという。

「種を芽吹かせるというのは楽しいものだ」と満足そう。三LDKのマンション暮らしの私は庭いじりというわけにはいかない。だが、振り返ってみると、家族五人の休みは自宅から半径五キロ以内で事足りた。

大都市近郊の新開地という地の利はある。釣り堀でのコイ釣り。川沿いの自転車道路でのサイクリング。けっこう近間がおもしろいのに驚いた。

渋滞や混雑で先を争って血走る目は、そこにはなかった。釣り堀では、隣の人が初心者の息子にイロハを教えてくれた。見ず知らずの他人とのなごやかな話が経験できた。

昨年未まで住んだ前任地ドイツは、休暇の過ごし方では日本の大先輩だ。スポーツ、趣味、散歩……。個人主義のお国柄のせいか、過ごし方は多様だ。知人は「休暇というのは、どこに行ったか、ではない。時間を自分のものにする事なんだ」といった。

有給休暇は、おおむね自分の好きなときにとれる。小刻みにも、まとめてもとれる。学校の夏休みの時期は州によって異なる。

休みのとり方が分散するから、日本の盆暮れ、ゴールデンウィークのような殺人的な混雑はない。週末には、飛行機、鉄道の運賃やホテル代が大幅に割り引きされるほどだ。

分散が、ゆとりを保証している。

「働け、働け」が「遊べ、遊べ」の強迫観念に変わるだけなら、意味はない。休みを好きなときにとれるような労働環境をつくることを労使に考えてみてほしい。内需を増やす効果もあるかもしれない。